

## 「事後検討会 司会案：スクール形式による一斉検討型プラン」

石川 晋（上士幌町立上士幌中学校）

<http://homepagel.nifty.com/maru-shin/>[zvn06113@nifty.com](mailto:zvn06113@nifty.com)

## 1. 事後検討会は、第一義的には授業者のためにある

事後検討会とは、何を検討する場なのか。

いくつもの考え方や意見がある。また、そもそも授業を見る視点というのは、参観者の立場や技量、そのほかの条件によって、様々である。

だが、授業を公開した教師にとっては、基本的には、授業を公開した上で、検討会を経て、授業の腕が上がったと思えることが第一義である。より具体的に書くと、事後検討会を行うことで、次のようなポイントがすべて押さえられていれば、授業者は大いに満足するわけである（配列に有意な順番はない）。

- |  |            |
|--|------------|
| ・公開してよかったという実感が持てること                                     | （関心・意欲・態度） |
| ・授業がより上手に運用できるように技術が検討できること                              | （技能）       |
| ・授業内容に関して、より充実できるような情報が手に入ること                            | （知識・理解）    |
| ・授業の事前・事中・事後において、多様な分析や解釈が行われ、それに対する自分の立場や考えが明らかになっていくこと | （思考・判断）    |

以上の課題が達成されることと、参観者にも満足のいく授業検討会になることとを兼ね合わせた事後検討会の要件としては、次のようなことが挙げられるだろうか。

- ・限られた時間を有効に活用する視点で計画されていること／時間は極大に活用すること
- ／・参加者全員の評価があること／・事実即した議論がなされ、できれば場面を限定した議論があること
- ／・多様な考え方が提出される仕組みがあること
- ／汎用性の高い手法であること
- ／・授業者に記録として残るものがあること
- ／など。

## 2. 今回の事後検討会のプランを示す

以上の整理を踏まえ、今回の事後検討会は次の流れで行う。カード、はがきとして用意するのは、100円ショップで購入できる汎用性の高いものである。

○授業は直前の一時間を検討対象とする

○授業者と司会者は正面テーブル、参観者はフロアにスクール形式配置で座る。

1. 授業者は最初に、授業のねらいと目的について端的に説明する 2分
2. 参観者はメッセージパッドに、A B D E 4観点で評定し、理由も付す。 5分
3. 全員の評定を確認し、厳しいものから、評定の理由を発言する。 3分
4. 授業者が返答をする。議論の内容がより深まるように、司会者が介入する場合もある。 10分
5. 評定の高いものについて、評定の理由を発言する。 3分
6. 授業者から、全体的な議論を通して考えたことをお話いただく 2分
7. 授業者にお礼の思いをこめて、はがきにメッセージを書く 5分

以上